



Assist

令和5年5月1日
奥能登教育事務所
指導課 久保

児童生徒が主役の授業を目指しましょう！

もうすぐ令和5年度の計画訪問Aが始まります。授業づくりにおいては「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが大切になります。そのためには、ICTを効果的に活用しながら、教師が学習状況を適切に見取って必要な手立てや支援等の働きかけを行うことが重要です。SSNにアップしている「奥能登ハンドブック」には、各教科における見取りの視点や教師の働きかけの姿を掲載しています。ぜひご活用ください。



—今年度の重点—



- ☆「資質・能力を育む」ための学力向上プラン、授業づくり
- ☆不登校の未然防止、早期対応

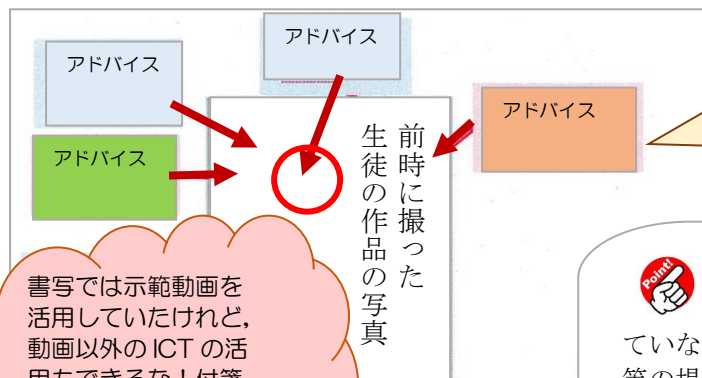
スマートスクールネット「学力向上プログラム」より

SSN「いしかわ学力向上プログラム」の「指導事例 学びの12か条+（プラス）」では、たくさんの事例を紹介しています。その中から、中学校国語の新しい事例を紹介します。今回の新しい事例は、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める内容となっています。また、話し合いや振り返りの場面におけるICTの活用の視点が写真も含めて詳しく掲載されており、小学校や他教科においても、参考になります。



第1学年 これまでに学んだ行書の特徴を意識して「実行」を書こう
～ICTを用いた話し合いや振り返りを通して、行書の特徴への理解を深める事例～
指導事項 知識及び技能（3）我が国の言語文化に関する事項エ（イ）

第2時 友達へのアドバイスを付箋に書いて送り合い、それを見ながら、改善点について話し合う交流シート例



書写では示範動画を活用していたけれど、動画以外のICTの活用もできるな！付箋機能を使って、書写でも交流してみよう。

生徒の時に撮った作品の写真

付箋に加えて矢印をつけたり、困ったりしながら、アドバイスを記入する話し合いの後、さらにその友達からのアドバイスを、第3時の「振り返りシート」にいかしています。



ポイント

行書の特徴を表す言葉を使って説明できていない、行書の特徴以外に目が行きがちである等の場合は、生徒が適切な説明ができるように働きかけましょう。

例えば、「相手に伝わるように、行書の特徴を表す言葉を使いましょう。」と書写の学習における用語に着目させ、確認することができます。

昨年度の訪問でも、多くの学校がICTを活用し授業改善を試みていました。

これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導にいかすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていってほしいと思います。

生徒指導提要（2022年12月改訂）のポイント



自己指導能力を身に付けさせることが大切！

生徒指導の定義

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。

生徒指導の目的

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

※自己指導能力

児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力

生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人に自己指導能力を身に付けさせることが重要です。



生徒指導の4つの視点から教育活動を捉え直そう！

自己存在感の感受

- 「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切
- 自己肯定感や自己有用感を育むことも極めて重要

自己決定の場の提供

- 授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が何より重要

共感的な人間関係の育成

- 失敗を恐れない、間違いやできないことを笑わない、むしろ、なぜそう思ったのか、どうすればできるようになるのかを皆で考える支持的で創造的な学級・ホームルームづくりが生徒指導の土台

安全・安心な風土の醸成

- お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らがつくり上げるようにすることが大切

生徒指導の新しい取組を増やすのではなく、これまで行ってきた教育活動を生徒指導の視点から捉え直し、意図的に働きかけていくことが大切です。



2軸3類4層構造を理解し発達支持的生徒指導を充実させよう！

